

主題 「自らの考えと獲得した知識や他者との学びをつなぎ社会生活に生かそうとする生徒」の育成

1 主題設定の理由

昨年度は、多様な他者と関わり協働的に学習を進め、新たな価値を生み出しながら、「主体的に課題を解決し社会参画しようとする生徒」の育成を目指した。単元や単位時間の課題を解決するため、ICTを活用して、情報を収集・整理したり、生徒同士の協働や専門家との対話をしたりすることを通して、異なる考えから自らの考えを広めたり深めたりし、追究した内容をプレゼンテーションした。成果としては、課題解決に向けた意欲を高め、主体的に課題を解決しようとする生徒の姿が増えたことである。一方で、実践を通して、振り返りシートに、学びを基に社会参画したいという記述があまり見られず、学びを社会生活に生かそうとする態度を十分に育成することができなかった。その原因として、追究する内容が個の興味・関心に基づいていないことであると考えられる。

今年度は、単元の課題解決に向けて、生徒が一人一人に応じた学習形態を選択し追究を進め、そこで生まれた気付きや疑問を議論することで、考えを発展させたり合意形成させたりして、自らの考えと獲得した知識や他者との学びをつなぐ。そして、社会的事象に関する課題を主体的に解決しようとする中で、社会的事象を多面的・多角的に考察し、社会の仕組みや働きについて理解し、よりよい社会の形成に関わろうとする意欲や態度が養われると考える。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための具体的な手立て

① 「学びマップ」の活用

「学びマップ」とは、一人一人が単元の課題を解決するために、マイテーマを設定し、本時の課題とマイテーマとの関わりを構造化して1枚のシートにまとめるものである。つかむ過程で、これまでの学習から、単元の課題解決に生かせそうなことを「学びマップ」に書く。それに「本時の学び」を付け加えていくことで、生徒は、試行錯誤しながら単元での学びを構造化して、自らの学びをメタ認知していく。「学びマップ」の活用を通じ、自らの考えと獲得した知識や他者との学びをつなぐことができると考える。生徒はICTの活用により、画面上で、蓄積した学びを「学びマップ」上で自由に移動させることが可能となる。このように「本時の学び」と「これまでの学び」の関連性を見いだしながら、学びを再構築することで、概念的知識の形成をすることができる。また、教師は「学びマップ」を見ることで、生徒のつまづきやどのような視点や立場から単元の課題解決を目指しているのかを把握することができ、一人一人の生徒に応じた指導や助言をすることができる。



②場の工夫

追究する過程では、単元の課題解決に向けて、生徒一人一人が様々な方法でアプローチできるようにする。そのために、「場の工夫」を行うことが有効であると考えられる。教室では、個人で資料から追究する生徒、他者（友人や教師）と意見交換する中で自分の追究課題に迫る生徒など様々な学習形態を自分で選択できる環境をつくる。そのような「場の工夫」を通じ、一人一人の課題や学習進度に応じて、「個別最適な学び」を充実させる。そして、この学びを基に課題についてグループや学級全体で意見交流をしながら、社会的事象を多面的・多角的に考察し、社会の仕組みや働きなどについて理解することで、よりよい社会の形成に関わろうとする意欲や態度が養われると考える。

<ヨーロッパ人との出会いと全国統一>

一体的な充実に向けた手立て

- ① 「学びマップ」の活用
- ② 場の工夫



<目標> (7時間中の6時間目)

織田信長と豊臣秀吉の政策の共通点・相違点を見いだす活動を通して、江戸時代へとつながる社会基盤の構築や人々の生活への影響を多面的・多角的に考察することができる。

本時の課題をつかむ。

- ・本時の課題を把握し、学習の見直しをもつ。
- ・本時の課題とマイテーマとの関わりを考える。

仮説

それぞれの身分の生活の仕方の違いなどは、どのようなものなのか解決することで、「信長や秀吉がどのような政治を行っていたのか、共通点や相違点、2人が民衆に与えた影響など」がわかり、どちらの人物のほうが時代に影響を与えて、未来にも影響を与えているのかが明確になるだろう。



マイテーマと課題の関わりの確認

- 個 前時までの「学びマップ」を基に、信長や秀吉の政策に関する疑問や必要感からマイテーマと本時の課題との関わりを考えさせることで、「知りたい」「確かめたい」という意欲をかき立て、追究活動に取り組めるようにする。
- 協 本時の課題とマイテーマの仮説との関わりを伝え合う活動を通して、政策に関する認識のずれや新たな視点に気付かせることで、課題解決に向けた意欲を高めることができるようにする。

本時の課題に対する考えをまとめる。

- ・本時の課題「信長と秀吉は、どのような日本をつくりたかったのか？」についての自分の考えをまとめ、政策の共通点・相違点について話し合う。



多様な考えを結び付けたりまとめたりするための「場の工夫」

- 個 カードで自分の状況を示し、「個で」「ペアで」「グループで」「先生と」など、一人一人の学習進度や深まりに応じて場が分かれ、課題の解決に向けて選択・判断できるようにする。
- 協 議論した内容を共有ノートに記録させ共通点・相違点を見いだす活動をすることで、信長と秀吉の政策を多面的・多角的に考察することができるようにする。



本時のまとめ・振り返りを行う。

- ・本時の学びを明らかにし、それを社会生活にどう生かしていくのかをまとめる。



「学びマップ」による振り返り

- 個 「学びマップ」に蓄積してきたこれまでの学びと、本時に身に付けた学びをつなげて振り返ることで、学びを自分事として捉え、考察したことを、どのように社会生活に生かすか考えられるようにする。
- 協 全員の振り返りを共有することで、他者の考えのよさを自分に生かし自分の考えに自信をもち、よりよい社会参画の仕方を考える



「場を工夫」することで、主体的に他者の知識を収集し考えを議論することができ、自他の考え方をつなぎ合意形成に向うことができた。「学びマップ」により、知識を構造的に見える化したことで、手にした学びを社会生活にどのように生かすかを考えることができた。

3 成果と課題

成果としては、「学びマップ」を使うことで学びをつなぐことができた」と肯定的に回答した生徒が 85%であった。これは ICT を活用して、生徒の必要に応じて、自身の「学びマップ」にいつでも仲間の考えを付け加えることができ、他者の考えに興味をもつことができたからだと考える。つまり、常に考えを共有できる状態にすることで、議論が活発になり、学びをつなげることができた。自由回答欄には、「学びをつなぐことでより知識を社会生活に生かすことができた。」と記述している生徒もいた。

「場の工夫」については、「学習方法を選択することで多面的・多角的に考察できたか」という質問に対して、肯定的に回答した生徒が 85%であり、様々な学習形態を選択し、一人一人の学習進度等に応じて、課題を追究することができた。このことにより「個別最適な学び」の充実を図ることができた。そして、この学びを基に課題についてグループや学級全体で意見交流をしながら、社会的事象を多面的・多角的に考察することができた。つまり、「場の工夫」によって「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、主体的に課題を追究することができ、深い学びの実現につながったといえる。

以上のことから、自分の考えと獲得した知識や他者の学びをつなぎ、社会的事象を多面的・多角的に考察し、社会の仕組みや働きについて理解することができた。そして、学んだことをどのように社会生活に生かそうとするか考えることで、よりよい社会の形成に関わろうとする意欲や態度を養うことができたと考える。課題としては、根拠を基にして議論できる生徒が少なかった。これは根拠の妥当性を検証する力が不足しているからだと考える。今後は妥当性を検証する力を高めるため、批判的思考力を身に付けさせたいと考える。

4 今後の展望

今後は、家庭学習と学校の授業をつなげることで社会的事象の理解を深めることで、より社会科における資質・能力の育成を目指したい。その実現には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、生徒「一人一人」のための学習に焦点を当てた実践をしていきたいと考える。

予測困難なこれからの時代において、これからの社会をどうよりよくしていくかを主体的に考え、社会に参画していこうとする人間性を育めるよう、研究と実践を積み重ねていきたい。

<参考文献>

- 北 俊夫 (2018) 『「主体的・対話的で深い学び」を実現する社会科授業づくり』 明治図書出版
群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランⅡ』
群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用 Version』
澤井 陽介 (2022) 『「本当に知りたい」社会科授業づくりのコツ』 明治図書出版
澤井 陽介・加藤 寿朗 (2017) 『見方・考え方 [社会科編]』 東洋館出版社
社会科教育 6月号 (2022) 『個別最適な学び×探究授業』 明治図書出版
奈須 正裕 (2022) 『個別最適な学びの足場を組む』 教育開発研究所
宗實 直樹 (2023) 『社会科「個別最適な学び」授業デザイン』 明治図書出版
文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領解説 社会編』 東洋館出版社

